

## 【 検査 】

480  $\beta_2$ -マイクログロブリンと $\beta_2$ -マイクログロブリン（尿）（急性尿細管障害疑い等）の併算定について

《令和7年3月31日》

## ○ 取扱い

次の傷病名に対するD015「10」 $\beta_2$ -マイクログロブリンと $\beta_2$ -マイクログロブリン（尿）の併算定は、原則として認められる。

- (1) 急性尿細管障害疑い
- (2) 腎障害
- (3) 多発性骨髄腫（骨髄腫腎）

## ○ 取扱いを作成した根拠等

$\beta_2$ -マイクログロブリンは低分子蛋白のため容易に腎糸球体で濾過されることより、糸球体濾過値が低下すると血中濃度は上昇する。一方、 $\beta_2$ -マイクログロブリン（尿）は、通常そのほとんどは尿細管で再吸収されるが、尿細管障害時には再吸収量が減少し尿中排泄量が増加する。

このため、 $\beta_2$ -マイクログロブリンと $\beta_2$ -マイクログロブリン（尿）は、糸球体濾過値及び尿細管障害の双方の影響を受けるため、病態の評価には両者を併せた判断が必要となる。

以上のことから、急性尿細管障害疑い、腎障害、多発性骨髄腫（骨髄腫腎）に対する当該検査の併算定は、原則として認められると判断した。